The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THESERVICECLUB FOR THEYMCA
THEY´S MEN´S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342
c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

国際会長主題	「価値観、エクステンション、リーダーシップ」
アジア会長主題	「変化をもたらそう」
東日本区理事主題	「変化を楽しもう！」
あずさ部部長主題	「変わるに挑戦！」
東京西クラブ会長主題	「変化を恐れず、少しずつ」

2021年２月号
ＮＯ　５３３

「畑で穀物を刈り入れるとき、一束畑に忘れても、取りに戻ってはならない。それは寄留者、孤児、寡婦のものとしなさい。　旧約聖書　申命記24章19節

TOF-「ファーマーズマーケット」　吉田　明弘

２月は、TOF（Time of Fast:断食の時)です。今年も例会の食事を簡素にして、食事代を国際協会の支援プログラムに捧げます。が、それに加えて、地域にあるクラブとしては、もっと日常的で実感できる活動を開発して地域への広がりも築けないものでしょうか。

私も気づいてはいませんでした。今、平和で飢饉もない日本で、三度の食事が満足に摂れない子どもが大勢いるのです。「晩ご飯は何かな」ではなく、「今晩、ご飯が食べられるのかな」と不安な思いで昼の時間を過ごしている子どもが、私たちの周辺にいるのです。

このことに早くから気づいた人達が「フードバンク」や、「こども食堂」の活動をしています。このことは、昨年９月例会で、フードバンク西埼玉の理事・丸茂真依子さんから学びました。

現在、杉並区には20以上の「子ども食堂」があり、杉並子ども食堂ネットワーク事務局が、なんと、私たちの例会会場のウエルファーム杉並にあります。

昨夏、河原崎和美さんが自宅の庭に畑を造り７種類の野菜を収穫したそうです。そうか、「クラブ農園」を作り「子ども食堂」を結び付ければ良いのか」と思いました。でもハードルは高い。その後、東京多摩南クラブの会報に「プランター栽培」の記事が載りました。一人一人が自宅で野菜を収穫したそうです。これならやれそうです。

協同作業ではなく、皆が“個人事業者”として、好きな野菜を自分の必要量と子ども食堂分で少し多めに作り、プレゼントする方式です。例会日に収穫し、例会会場でまとめてもよしです。

手作り野菜には、話題性と永続性、人の広がりも期待できます。クラブとしては、先方との折衝、野菜育ての学習、情報交換くらいにしたいと思います。

子ども食堂は、主催者、開催頻度、時間、対象、会費、食材調達などさまざまで、クラブとの相性もあるでしょうし、われわれを理解いただくことが肝心です。

河原崎和美さんの作品

現在は、コロナ感染防止のために、どこも活動を中止していますので、これ以上の調査を中止しています。

「とらぬ狸の皮算用」。まずは、興味のある人が、野菜作りに挑戦してみましょう。収穫があったら、自慢の作物を例会で披露する。庭にある山椒、ミョウガ、ユズ、クルミ、夏みかん、ウメ、柿、スモモも並べれば、例会でファーマーズマーケットが出店できます。

野菜作りは、どう考えても誰でもできるものではありません。やりたい人が、やりたいだけやれば良いのです。買う人、評価してくださる人いて成り立つのです。

クラブ役員

会長	篠原　文恵
副会長	大野　貞次
書記	本川　悦子
会計	石井　元子
担当主事	横山　弥利

１月の記録				ニコニコ	ー円
在籍者数	１２人	メネット	ー人	クラブファンド（当月）	ー円
（内功労会員）	１人				
出席者数	ー人	コメット	ー人	クラブファンド（残高）	ー円
メーキャップ	ー人	ビジター	ー人	ホテ校ファンド（当月）	ー円
出席率	ー％	ゲスト	ー人	ホテ校ファンド（残高）	ー円
前月修正	ー	出席者合計	ー人	WHO 参加者	ー人

２月クラブ例会は中止ですが

２月 18 日(木)に予定していた 2 月例会は、メールでお知らせした通り中止といたします。今月の強調テーマは TOF（Time of Fast(断食の時)です。ワイズメンズクラブは、飢餓を実感し考えようと、この日のクラブ例会の食事を抜いて予定した食事代を国際協会の TOF 資金に送っています。当クラブの場合は、食事を抜かずに、当日会費を 500 円いただき、質素な食事として、その差額と本来の食事代 1500 円を合わせて、送金しています。今回は、献金は、1500 円となります。その趣旨を覚えて、この日をお過ごしください。

今月の Happy Birthday
高嶋美知子さん

３月例会は久し振りの話し合い

３月例会は、3 月 18 日(木)、18：45～21：00、いつもの会場で行います。久しぶりの顔を合わせての例会となります。卓話はなくし、懸案事項について話し合います。話題のひとつは、5 月 8 日に予定されているあずさ部評議会のホストとして、どのような評議会を提案するかです。コロナ対策は十分承知の上で、あずさ部らしい明るい会を考えましょう。

４月は「プランターの野菜作り」

４ 月例会の卓話は、TV で人気の恵泉女学園大学の野菜園芸学教授、藤田智先生（東京多摩みなみ）をお迎えして、プランターでの野菜づくり」についてうかがいます。楽しいひとときとなりそうです。会場は、ウエルファーム杉並が休館となるため東京 YMCA 山手センター3F 会議室に変更する予定です。当日はオンラインでも参加できることも検討します。

YMCA Today

■1 月でホテル科 1 年生のホテル実習前期が終了。2 月からはオンラインでの就職セミナーが始まります。自己分析から履歴書の書き方、模擬面接などの試験対策、就職活動に役立つノウハウを伝授します。ホテル人事担当者による学内企業説明会も行われます。コロナ禍の就職活動であっても、それぞれに合った就職先にたどり着けるよう、スタッフ一同しっかりサポートしていきます

就職セミナー（面接の練習）

■全国 YMCA で取り組んでいる、いじめ反対キャンペーン「ピンクシャツデー」が今年は 2 月 24 日に設定されました。

東京 YMCA では 1 月 30 日に金子春菜弁護士と足立悠弁護士（ストップいじめ！ ナビ弁護士チーム）による講演会「大人も学ぼう！いじめの構造と解決策」をオンラインで開催しました。

その他、各部では教職員や子どもたちがピンクのものを身につけてアピールや寄せ書きをするほか、いじめや差別について学ぶ様々な取り組みを行う予定です。

■江東区内で生活が困窮されているご家庭に食品を無料で配布する「フードパントリー」は、皆さまのご協力によりこれまで 2 回開催することができました。12 月 12 日、東陽町コミュニティーセンターは江東区内の 9 か所のこども食堂と協力してフードパントリーを実施、25 世帯 70 人の方にお米やお餅などの食料を無料配布しました。実施にあたり企業や団体、個人の方など多数から食品のご寄付をいただきました。ただいま第 3 回のご寄付を受け付けています。引き続きご協力をお願いします。

■新型コロナの感染拡大が心配される最中ですが、春休みには落ち着くことを願い、2 月よりキャンプ・スクールのご予約を開始します。お支払い期日を 3 月に延ばすなど柔軟に対応しながら、子どもたちの成長の糧となる活動を提供できるよう尽力してまいります。

（担当主事　横山弥利）

WHOは当分中止

WH0 ウォーキングは、事態が好転するまでは、準備はしても 13 日までに『WHO リポート』が届かない場合は、中止とする旨の連絡をしています。

あずさ部EMC委員会

第 2 回あずさ部エクステンション委員会が、2 月 5 日（金）夜、Zoom 形式で開かれました。当クラブからも神谷幸男さん、画面上ではオブザーバーを含め 20 人ほどが参加されていたようです。

EMC 委員長・菰渕さんの司会で現状が語られ、シンポジウム開催などが提案されたが、部を超えて近隣のクラブ合同で活動する案などの意見が出された。コロナ禍にあっても、甲府 21（5 人）、石巻広域（4 人）の新入会者の報告があり、前回同様、会員増強についての本音も聞かれました。

「文京アフタヌーンクラブ（仮）のオンライン交流」Zoom 会議が行われたそうです。Zoom 方式は非常に良いツールだと思います。

会費振り込みのお願い

会費の納入は、これまで例会出席時にお持ちいただいておりましたが、例会に出席できない方もありますので、銀行振り込みをお願いいたします。

振込先　みずほ銀行方南町支店
普通口座　8027928
東京西ワイズメンズクラブ

☆☆☆インタビュー☆90☆
青山 孝男さんに聴く
会津クラブ

—青山さんの入会は、何年ですか。
「1993 年です。クラブのチャーターメンバーです」
—どういうことから、入会に。
「若松栄町教会の会員でしたが 1991 年 12 月に高橋力牧師からワイズメンズクラブを会津に設立をしたい旨の説明があって、翌年 2 月から設立説明会の世話人となりました」
—逡巡はありませんでしたか。
「好奇心から、ためらいなく加わったと思います。入会前に仙台青葉城クラブ、東京クラブの代表者による説明があって YMCA を知りました。福島県では最初のクラブというのにも惹かれました」
—会津のお育ちですか。
「はい、会津で育ち、地元の学校を卒業し就職しました。生粋の会津人なのかな？」
—子どもの頃は。
「幼小の頃は山間部の自然の中で育ちました。長男であることを意識していました。父が公務員だったので会津各地を転勤し、学校も変わり、おかげで中学校の同級会は 2 校に出席していました」
—中学、高校でのクラブ活動は。
「運動は苦手なので、高校では、合唱部で過ごしました。当時顧問だった先生には、後年、数十年続けている国際交流協会の日本語ボランティアで出会いました」
—お仕事は。
「通信機メーカーの半導体製造の会津工場を 11 年前に定年退職しました。仕事は現場でかつ交代勤務をしていました」
—青山さんは、東京との接点は。
「実弟が私と同じ会社の川崎にいましたが、亡くなったので行き来が減りました」
—東京クラブの松田俊彦さんが、このインタビューで、会津クラブの設立は仙台青葉城の金原譲さんが「会津若松に高橋力さんという面白い牧師がいる」と言ったことがきっかけと話されましたが。
「たしかそうです。クラブ設立までは有志で設立準備委員会を立上げ、星孝男初代会長が奔走したようです。金原、松田ワイズとどのような相談をしたのかは不明ですが」
—かつては 25 人ほどの会員が。
「チャーターメンバーは若松栄町教会員が 12 人、メンバーが 15 人を誘いました」
—地域において目を見張る活動をされているのが印象的でした。
「初代会長が掲げた『青少年の育成』のために行った市の「少年の主張大会」や「ユネスコ児童画展」への協賛は現在も継続しています。他の国際奉仕クラブと比べ知名度は低いので、少しでも存在を知って欲しいと、会津若松市で毎年開催される「十日市」への出店を 26 年続けてきました」
—現在は会員数が 5 人、青山さん以外は皆さん高橋姓ですね。ご親戚ではないんですよね。間違えませんか。
「みな名前で呼んでいます。書く時は漢字で髙橋と高橋を区別していますが、皆さんは、お判りにならないでしょうね」
—現在、“コロナ”の影響は。
「例会は休むことなく対面で続けています。人数が少ないので 3 密にならないんでしょうね」
—青山さんが掲げられているクラブの方針の中に、「メンバーの個性をワイズの力にする」「定着している活動を大切に、地域と連携していく」がありますね。5 人のメンバーで、どうして、ユニークダンスやゴスペルクワイアなどの活動が生み出され、実行できるのですか。
「メンバーがそれぞれの団体のトップであるため、情報交換で強く繋がっています。互いの団体や活動を尊重しているからだといえます。事業を実施する中で、ワイズのメンバーが地域の団体と有機的につながりがあります。ひとよがりでなく、声をかけ合ったり、時には手伝ってもらっています。主催はワイズですが、クラブ外の人がしっかりと繋がっているんです。メンバーの活動はブリテンに掲載していますので、ぜひご一読ください」
—青山さんは、以前から、地域活動とか、奉仕活動に関心があったのですか。
「スタートは PTA 活動です。子どもが 4 人と恵まれ、小学校 2 校、中学校、そして高校の PTA 会長を務めましたから、人とのつながりで自己能力を育てて頂き、結果として地域活動と奉仕活動に足を踏み込んでしまった感じです。好きだったのかなぁ。子ども達からは不評のようでした」
—趣味とか、習い事は。
「これといった趣味はないんです。長年続けているのは日本語ボランティアです。ワイズのメンバーとなった時、ある方の紹介で日本語講座を受講したのが始まりでした」
—ご自身、ワイズに加わって良かったと思われることは。
「視野が広まりました。メンバーが少ないのですが、他のクラブからのプラスαが楽しみです」
—何か今望まれることは。
「現在は、コロナ禍で他クラブとの交流が図れませんが、交流ができる日を望んでいます」
—最後に、座右の銘というか、何かの勝負所で浮かぶ言葉は。
「有言実行。成し遂げるために自分の士気を高める。そのために何をなすべきかを心に留めています」
—有難うございました。（吉田明弘）

身近な人々　　村野絢子

西永福②

長く住んでいて、身近と言えば５人の子どもたちが途切れず合計 12 年間学んだ永福小学校である。モーリシャスに住む孫の内二人が長女は 3 年生の時、三女は５年生の時１か月ずつ「日本の学校に行きたい」という本人の希望で、通わせていただいた。紙からはみ出す息子の鶏の絵を褒めて下さった川名先生、遠足で、「百合さんは駅のホームで『お年寄りが通れないから道を開けて』と友達に注意していましたよ」と知らせて下さった後藤先生、大らかな良い先生に恵まれた。

母親たちも自主活動で人形劇グループを作り、人形、背景、台本作り、役決めをして練習し、伝え聞いた高井戸第三小学校、和泉小学校の母親も加わって、保育園や施設で上演した。「はらぺこブン太」「ブレーメンの音楽隊」は好評であった。

毎朝、神田川を歩きラジオ体操をする仲間に若い明子さん夫婦がいる。明子さんは千葉館山の 120 年前に建てられた、母屋と焚き場（台所・風呂）と蔵からなる茅葺民家・ゴンジロウを 2010 年に知った。

茅を刈り、蓄得て、屋根を葺き、古萱を田畑に漉き込む。これを年周期で繰り返す。里山の景観だけでなく、生態系を回していることを千葉大学・東京大学の学生たちに教え、瓦葺ゴンジロウを蘇らせた。2011 年から並行して、メガシティーデザインスタジオを立ち上げ、千葉大学、東京大学、インドネシア大学、慶応大学の学生と共に、ジャカルタの劣悪な密集住宅の環境を改善するスケールの大きな仕事をしている、東京大学の教授である。資料を頂いてその活躍を始めて知った私はすぐにでも館山のゴンジロウに会いたいが、コロナでままならない。その時を楽しみにしている。

人形劇「腹ぺこブン太」の人形とリュック

あなたから頂いた時間

村野絢子

今までこんなに予定の入らないゆっくりした時間はあったかしら、家族で過ごした時間、教会生活、結婚子育て、キャンプ、教師生活、コーラス、体操、YMCA、旅行。いつも走っていた。余裕がなかった。一方的に話していた。学生時代には、旅行から戻って、名古屋駅で修養会の荷物と交換したこともあった。母は笑顔で「気を付けて行ってらっしゃい」と云ったのだろう。旅行中の洗濯物の詰まった鞄を持って家に帰ったのだ。それから 50 年、酸素をつけた母はこの部屋で最後の１年を過した。静かな母とわたしの豊かな時間であった。

浜田山の駅前のお豆腐屋さんの奥さんは、ご主人が倒れて 27 年間、病院と施設に通い続けている。行く度に「俺は幸せだ、ありがとう」と繰返すんだよと言う。声が出なくなってからは文字盤で「あ・り・が・と・う」そして両手で○の合図だった。コロナ防止で何カ月も会えない日々が続いたが、やっと会えたガラス越しの 3 分間,反応はこちらを見てうなづくだけ、「淋しいよう」と彼女の声が胸に刺さる。東北から出てきてひたすら働いたというご夫婦の愛の姿である。

教会の仲間でリタイアして福岡に行かれたご夫妻がいる。着いて間もなく交通事故に遭ってリハビリを続けていらした。「主人はあれもこれも引き受けて頑張るので、いつも私は心配して家で待っていた。今は常に私の手が必要で、いつも私と一緒にいるので本当にしあわせなの」と電話口の明るい声であった。

事故以来、夫人に敬語を使うようになったご主人は「ゆりこさん、お時間があったら讃美歌を弾いてくださいませんか」と頼まれるので「いいですよ、何番ですか」と答えて伴奏し、病院で「わたしの病名を教えてください」「○がんです」「正しく教えて下さってありがとう」の会話があり、「私は静かに死んでいきます。」と何度も口にされた。脳梗塞もあり自宅療養と合わせて 10 年。ご主人は、2020 年 11 月 17 日天国に召された。

どれもあなたから頂いた時間。

編　集　後　記

巣ごもりの中で、必要に迫まれて古い書類の頁をめくっていたら、忘れていた自分の書いたものに出会った。

「原稿は、井戸水と同じ。汲めば汲むほど出るようになる」

良いこと言っているじゃん。自分で考えたのか、どこからか引用したのかは、判らない。

○年ほど前に、あるところに井戸を掘った。バザーで得た 100 万円を投じたのでこちらも必死だった。水の出が悪いので不満を言ったら職人に「汲んでいたら出るようになるよ。」その通りだった。

当クラブのブリテンの p4 には、随想コーナーがある。始めた時、すぐネタが尽きるよ、と私は悲観的だった。編集担当者の苦労結果だろう。今は、茶の湯に用いたいような、潤いがあり清冽な水が湧き続けている。これからも、どうぞよろしく。　(AY)